

南北両極の大気観測から見た 気候変動

—氷の世界で雲を追う—

日時:2026年 **10月11日(日)** 14:00~

場所:日本大学文理学部(世田谷区)

ラーニングコモンズ **対面のみ**

対象:雪氷学・気象学に興味がある方ならどなたでも

講師 **佐藤和敏**さん

参加費 無料

【現職】 国立極地研究所・助教

定員:約30名

略歴 北見工業大学・助教 総合研究大学院大学

申込期限:2026年10月4日(日)



講演要旨

雲は、太陽からの日射を散乱・反射する一方で、雲自身も赤外線を放出することから、地表の熱収支に影響する。特に極域では、雲が海氷の融解や形成にも影響するため、気候変動を理解する上で重要な要素の一つである。しかし、北極や南極では地上からの観測が限られており、どのような雲が発生しているのか、まだ十分に明らかになっていない。

本講演では、近年、北極や南極で実施した気象観測の様子を紹介するとともに、現地での観測から明らかになってきた極域の雲の特徴について紹介する。

司会・進行 毛利亮子さん



【現職】 国立極地研究所・特任助教(科学コミュニケーター)

略歴 日本科学未来館・科学コミュニケーター



申込登録フォーム

主催:日本雪氷学会 関東・中部・関西以西支部共催:日本気象学会

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kansoku/syowabase/weather/weather.html>